

日本メディカルコミュニケーション学会 発足の経緯と第1回シンポジウム

Inauguration of the Japanese Association of Medical Communication and the first symposium

中山健夫¹⁾、藤崎和彦²⁾、原木万紀子³⁾、榊原圭子⁴⁾、岩隈美穂⁵⁾、木内貴弘⁶⁾

Takeo Nakayama¹⁾, Kazuhiko Fujisaki²⁾, Makiko Haragi³⁾, Keiko Sakakibara⁴⁾,
Miho Iwakuma⁵⁾、Takahiro Kiuchi⁶⁾

1) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野

2) 岐阜大学 医学教育開発研究センター

3) 埼玉県立大学 健康開発学科 健康行動科学専攻

4) 東洋大学社会学部 社会心理学科

5) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻医学コミュニケーション学分野

6) 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野

1) Department of Health Informatics, School of Public Health, Kyoto University Graduate School of Medicine

2) Medical Education Development Center, Gifu University

3) School of Health and Social Services, Department of Health Sciences (Behavioral Sciences), Saitama Prefectural University

4) Department of Social Psychology, Faculty of Sociology, Toyo University

5) Department of Health Communication, School of Public Health, the University of Tokyo

Abstract

The Japanese Society of Medical Communication was established to follow the Japanese Society for Health Literacy as one of the new academic societies under the Japanese Society of Health Communication. In the broad sense of health communication, medical communication is communication among medical professionals, especially regarding health care. The main targets are research communication at academic conferences and meetings, dissemination of medical knowledge, public relations activities for doctors and other medical professionals, and communications about the approval and application of drugs and medical devices. In FY2021, the society held a symposium “Medical Communication: From Several Perspectives” at Health Communication Week 2021 in Hiroshima. The newly established Japanese Society of Medical Communication promoted its activities in cooperation with the Japan Society of Health Communication and other related academic societies, with the aim of expanding perspectives and deepening insights into communications related to health and health care.

要旨

日本ヘルスコミュニケーション学会を起点とした関連領域の新たな学会として、日本ヘルスリテラシー学会に続いて日本メディカルコミュニケーション学会が発足した。メディカルコミュニケーションは、広い意味でのヘルスコミュニケーションの中で、特に医学や医療に関する医学・医療関係者相互のコミュニケーションを想定し、主な対象として学会、学術集会における研究コミュニケーション、医師等の医療関係者を対象とする医学知識の普及・広報活動、医薬品・医療機器の承認・申請等のコミュニケーションなどを課題とする。2021年度はHealth Communication Week 2021, Hiroshimaにおいて、本学会主催シンポジウム「メディカルコミュニケーション-いくつかの視点から-」を開催した。

新たに発足した日本メディカルコミュニケーション学会が、日本ヘルスコミュニケーション学会はじめ関連学会と連携し、健康や医療に関わる「コミュニケーション」の展望を拡大し、洞察を深化させていくことを目指して活動を進めたい。

キーワード：メディカルコミュニケーション、学術研究コミュニケーション、医療者間のコミュニケーション

Keywords: medical communication, communication of academic research, communication among health care professionals

ケーション学会は、コミュニケーション領域の細分化・専門分化に合わせて、2019年以降、新たな関連学会の発足と全体の機構化に取り組んだ。その関連学会の一つとして日本ヘルスリテラシー学会に続いて発足した日本メディカルコミュニケーション学会に関しては、次の方針が決定された。

「メディカルコミュニケーションは、医学や医療の関する医学・医療関係者相互のコミュニケーションであり、具体的な対象として、学会、学術集会における研究コミュニケーション、医師等の医療関係者を対象とする医学知識の普及・広報活動、医薬品・医療機器の承認・申請等のコミュニケーションが挙げられる。」

日本メディカルコミュニケーション学会が対象とする領域は大きく以下の通りである。

- 1) メディアコミュニケーションを主とするもの（学術情報の流通・医療関係者への知識普及）
 - ・（特にコロナ以降の）オンライン学術集会
 - ・雑誌投稿規定
 - ・研究不正防止
 - ・臨床試験登録・症例データレポジトリ
 - ・診療ガイドライン
 - ・メディカルライティング
 - ・メディカルイラストレーション
 - ・医療者の診療行動の変容のためのコミュニケーション
- 2) 対人コミュニケーションを主とするもの（医療者相互の対人教育・研修のコミュニケーション）
 - ・医学研究教育機関・医療機関の組織のコミュニケーション
 - ・医療の多職種連携
 - ・コーチング
 - ・メンターリング

3. 第1回学術集会・第1回シンポジウムの開催

ヘルスコミュニケーションウィーク2021～広島において本学会の第1回学術集会の企画として第1回シンポジウムを開催した（2021年10月3日）。

本学会が対象とする「メディカルコミュニケーション」のイメージを関係者と共有するため、初回シンポジウムはいずれも本学会運営委員である藤崎と中山が座長、榊

原、原木、中山がそれぞれの視点から講演を行った。

- ・中山健夫（京都大学）：公正な学術情報コミュニケーションを考える
- ・榊原圭子（東洋大学）：医療者の well-being を支える資源としての組織コミュニケーション
- ・原木万紀子（埼玉県立大学）：メディカルコミュニケーションにおける視覚情報の有効活用に向けた包括的展望 - Graphical Abstract に焦点を当てて

それぞれの発表の詳細は、各演者による総説を参照されたい。

6. 結語

日本メディカルコミュニケーション学会の発足の経緯と第1回学会でのシンポジウムの概要を報告した。

新たに発足した日本メディカルコミュニケーション学会が、日本ヘルスコミュニケーション学会はじめ関連学会と連携し、健康や医療に関わる「コミュニケーション」の展望を広げ、洞察を深化させていくことを目指して活動を進めたい。

謝辞

本シンポジウムの機会をいただいたヘルスコミュニケーションウィーク2021～広島～ 総大会長・第13回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会大会長の河口浩之先生はじめ、学術集会の準備・運営に当たられた皆様にこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。

研究資金

無

利益相反自己申告

無

引用文献

無

*責任著者 Corresponding author : e-mail

nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp